

資料

令和元年度

地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究成果報告会

議事録

日時：令和2年2月15日 10:00～16:20

次第：

1. 校長挨拶
2. 基調講演
3. 担当生徒による研究内容のプレゼンテーション
4. 模擬国連・ポスター発表
5. 事業概要説明
6. 講評

<基調講演講師>

山形大学国際事業研究センター 国際事業化研究センター長
小野寺忠司教授

<運営指導員>

尚絅学院大学 森田明彦名誉教授
東北公益文化大学 スルトノフ・ミルドザイド教授
JICA 東北 市民参加協力課長 本田勝様
米沢栄養大学 北林蒔子准教授

1. 校長挨拶

本日は、九里学園高校の研究成果を見て頂くためにお集まりいただきありがとうございます。九里学園高校では、これまでに様々なグローバル人材を育てるための活動を行ってきました。5年前には、文部科学省が提案したSGH事業に、全国の様々な方と活動ができるという理由から申し入れをしました。SGH認定校になると、様々な数値目標が提示されるため、生徒の希望に関係なく国として人材を育成する強制的な方針に従う必要があるため、そういった数値目標に縛られずにSGHアソシエイト校として活動してきました。その取り組みを踏まえた上で、今年度開始した「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の取り組みに発展してきたと感じています。この取り組みは、グローバルな考

え方でありながらローカルに活動もできるという多彩な視野をもった生徒を育てることを目標としています。日本で広まりつつある SDGs に基づいた学びは、生徒にとってひとつの視点として学び発信していかなければならないという考えに発展してきたことは、SDGs の取り組みを行っていた時代からの流れから、先見の明がある先生方の試行錯誤の結果、このような教育に方向性を切り替えていくチャンスがあったことは幸いだったと思っています。

今年度は 1 年目なのでこれから開発、解決していかなければいけない内容を発表させていただきますので、是非皆さんのご意見を頂けたらありがたく存じます。

2. 基調講演

山形大学国際事業化研究センター 小野寺忠司センター長

「起業家育成教育 ～いま必要な人材とは～」

「起業家」というと、あまり身近に感じられないとお感じになる方もいらっしゃるかもしれませんが。起業家育成は日本で過去 30 年間なかなかうまく進まずに来た課題だからです。その結果、日本経済の低迷、世界にアプローチできるようなグローバルな日本企業がなかなか生まれにくいという現状があります。その課題を解決し、大きく言えば日本をどう再生していくかという根本的なアプローチをしようということで、文部科学省が平成 29 年から Edge-Next (エッジネクスト) というプログラムを発動させました。各大学がそれを採択し、いま日本全国に取り組みを行う大学があるわけです。

世界中の企業の時価総額ランキングの比較表をご覧ください。時価総額とは、世界の投資家が各企業の成長の可能性を判断して投資を受けた企業のランキングになります。1989 年と 2019 年のランキングを比較していますが、1989 年には 1 位の NTT に次いで銀行系の日本企業がバブルの影響で海外進出を果たし、多く投資を受けて伸びていたわけですが、2019 年になると 1989 年に 8 位だったトヨタ自動車が 46 位に入っている以外は、50 位以内に入っている日本企業はありません。つまり日本企業が世界を牽引している時代ではなくなったということです。シリコンバレーのベンチャーキャピタルの方々と話をしても、日本のグローバル化が衰退しているという実感を持っています。2 年前には IR (企業が投資家に向けて経営状況などを発信する活動) で、豊田章夫社長は 100 年に 1 度の変革期だと宣言しました。また、トヨタ自動車の競合相手は自動車会社ではなく、巨大プラットフォーマーの Google だとも言いました。トヨタ自動車もプラットフォーマーになるために買収なども行っていますが、難しいと思われれます。インスタグラムが 1000 億人のユーザーを獲得するのに 1 年かかっていないというスピード感をもってトヨタ自動車も新しい改革をしていかなければならないからです。大企業に就職出来たら安定できると考える時代ではないということを学生にも伝えています。

また、これから日本の人口減少と高齢化が進むと、地方ではますます新しい事業が生まれ

ないという課題があります。その課題に取り組むために、グローバルリーダーを育てる必要性があり、山形大学でも平成30年からその取り組みを行っています。起業家精神を持った人材の育成です。起業家精神を持った人材というのは、挑戦的でリスクを恐れずにチャレンジする精神を有し、独創的なアイデアを常に探究し続け、目標に向かって積極的に実行できる人材のことを言います。日本社会では「出る杭は打たれる」という風習がありますが、これからは「出る杭は引き上げてサポートする」時代でなければいけないと思います。

3. プレゼンテーション

(1) 2年5組 堀越貴璃 「川西町フェアトレード運動」

世界で、公平公正な取引がなされないために貧困に苦しむ生産者に必要とされているフェアトレードに注目し、人と環境に配慮した世界の倫理的消費行動の促進と地域活性化を目的とした活動の世界からフェアトレードをなくす第一歩として川西町をフェアトレードタウンにする研究を行いました。

質疑応答① 川西町議会議員 吉村徹様

なぜ川西町にこだわってフェアトレードタウンにしたいと思ったのか。また、今回の課題研究を通して川西町について感じたもの、見えてきたものはなんですか？

解答

フィリピンに短期留学をした際に、貧困層の人たちの生活を目の当たりにし、世界で貧困で苦しむ人にアクセスすることができないか考えた。名古屋市でフェアトレード運動を行っているという事例を参考に、自分の地元である川西町でまず実現したいと思ったからです。そのための草の根活動として川西町で活動を行いました。

質疑応答② 二井宿自然栽培農家・たカラボ事務局長 小林温様

フェアトレードでない商品が主流であることについてどう思いますか？

解答

フェアトレード商品は、一般的に価格帯も高いので、それを積極的に日々購入することを推奨するというのではなく、フェアトレード商品について知り、その意味を分かったうえで購入する人が少しでも増えてわずかでも支援につながればいいと思います。

(2) 2年5組 高橋 蒼 「オーガニックが地球を救う」

オーガニック食品によって地球環境問題解決の糸口を見出すことを目的としている。レストランや官公庁でのインタビュー調査やハワイのマーケットなどの見学を通して問題解決の方策を見つけるとともに、それについての学びや考えについて発信をしました。

質疑応答① 二井宿自然栽培農家・たかラボ事務局長 小林温様

有機農業が環境問題に貢献できるという観点からオーガニックを推奨するべきと考えていますか？または食べ物として健康に良いものを作り出したいということが第一なのでしょうか？

解答

オーガニックは広まりつつあるが、現状としてまだ概念が浸透しているとは言えない状況の中で、自分達自身がオーガニック商品に目を向けて、健康に良いものを口にすべきという考え方を広めていくことが先決だと思います。

(3) 1年生グループ発表① 「食と健康」

高島町が誇る有機農法における理念を受け継ぎ、その価値を未来へ伝承するために国内外へ向けて効果的に発信、普及を目的としています。フィールドワークを通して有機農法や昔ながらの知恵を体験し、その価値と課題を理解して問題解決の方法を探究する。また、食材の価値については米沢栄養大学の加藤教授の協力により科学的な検証も行いました。今後研究室との効果的な連携方法なども検討し、来年度は「たかラボ」の実行委員会と連携を取りながら協働で有機農業についての価値を検証していくことを目指します。

(4) 1年生グループ発表② 「子ども食堂」

貧困、特に国内に存在する相対的貧困を主題に行った探究活動から派生したプロジェクトであり、子ども食堂を数回開催することを目的とすることでその意義や運営のためのプロセスを知り、今後の本格的な食堂開設のためのノウハウを得て、支援者の獲得など、持続可能な子ども食堂について考えることを目的として活動を行いました。NPO 法人ゆあらさんとの共同開催による子ども食堂は9月と10月の2回、12月には九里学園主催の子ども食堂を開催することができました。

(5) 1年生グループ発表③ 「多文化共生」

外国人と一緒に地域の課題解決を目指した活動を通して、外国人居住者が真に社会を構成する一員として市民参加できる社会を創生することを目標にします。外国人居住者との対話の場としてグローバルカフェを開催し、彼らが抱える本当の課題に耳を傾け、米沢市立病院等へのインタビューを含め実態調査も行った。

運営指導員の先生の講評 プレゼンテーションについて

(1) 米沢栄養大学 北林蒔子准教授

私は米沢栄養大学で管理栄養士になる学生を教えています。生徒は食が大切だという考えを持って入ってくる生徒が多いですが、前任校では杏林大学保健学部で看護師や救急救命看護の学生たちに栄養学を教えていました。その生徒たちは、自分がどんな食事をとるかで健康になるかといった意識の高い生徒は少なかったと感じています。九里学園の探求学習では、食を大事だと思って研究してくださることを、とてもうれしく思います。オーガニック食品もとてもいいですね。良さを感じていながら、虫がついていたり、形が悪くて価格も高ければ買わないということが起こります。私たち消費者が認識を変えて、食べるものが私たちの体を作るという事に理解を深めていくことができると思います。今回の九里学園の発表が、そういった影響の一部を担ってくれるといいと思います。

(2) 尚絅学院大学 森田明彦教授

素晴らしい発表でした。今回のプロジェクトの発表準備のために、たくさん学ばれたのではないかと思います。私が SDG s の大切さについて気が付いたのは、皆さんよりも遅くて今年の7月くらいです。私はユニセフやセーブ・ザ・チルドレンや国連にも行った事があるので、SDG s の前身となる NDG s や子供のための世界サミットなど歴代の目標について知っていますが、一般の人にはなかなか届かなかったというのが評価でした。そのためか、SDG s についてもあまりその良さを認識していませんでした。ところがニューヨークでの SDG s の会議で、ナイジェリアの先生から SDG s が実際に届いているという話を聞き、考えが変わりました。九里学園の校長先生からグローバル型の探求授業と SDG s が学校の教育方針でもあるとお聞きして、的を射ていると納得しました。皆さんがやろうとしていることは、SDG s が本当に求めている事で、身近なところから持続可能な地球を実現していけるというターゲットに合った取り組みなので、これからも続けていって欲しいと思います。SDG s とは、皆さん含めて世界中の人々が実現したいと思う世界像なので、こういう世界を実現したいということを包括的に表現しています。九里学園の生徒さんが食や多文化共生や貧困といった特定の課題に取り組むことを通じて、すべての目標に影響するし関連しています。是非 SDG s の目指す世界の目標に対して、みなさんの活動がどう影響し関連するのかを考えながら、さらに活動をして頂けると、より深いかつ自分自身の身につくような活動になるのではと思いました。素晴らしい活動だと思います。本当にお疲れさまでした。

4. 模擬国連

議題：世界食糧安全サミット ― 2030年の食糧をどう担保するか

参加生徒：1年生12名 3年生7名 新庄東高校11名 合計30名

司会：石川美咲、鈴木のぶえ、土屋みなみ

オーストラリア、ブラジル、ブルキナファソ、チリ、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、日本、クウェート、パラグアイ共和国、ロシア連邦、サウジアラビア、タンザニア、タイ、アメリカ合衆国、ザンビア 計18カ国

① アメリカ大使：山口美紗

アメリカの飢餓人口5%未満、世界の飢餓人口は12% ― 8人に1人が飢餓。

遺伝子組み換え作物（GM）の大量生産、大規模灌漑農業を実施している。バイオ燃料用トウモロコシで利益を上げている。世界の食糧問題を解決するため、これまでの食糧生産を見直すために、GMの研究機関を設立し、安全性を担保する。アメリカが一番多く資金を持ち、協力国を募る。また、食料を再配分するためにワールドフードバンクの設立を提案。実現のための協力内容を討論する。世界全体で食品ロス削減目標を立て、各国5～10%程度の削減を目指す。

② パラグアイ共和国大使：島貫康平

フードロス問題解決のため、FAOの下部組織としてのインフラ部門の設立を提言。収穫後と加工段階でのロスを10年間で10%減らすことを目標に、冷蔵技術や運搬工程などの改善のための設備投資などを目的とした500億円の資金調達、技術提供を求める。削減できなかったパーセンテージに応じて資金を返却するといったペナルティーも課すことにする。

③ アメリカとブラジルによる最終決議案

GMの安全性を研究する研究機関をパラグアイに設立する。

気候変動に対応したGMの安全性の研究を行う場所はブラジル、ザンビア、チリが研究機関の設置場所を提供する。資金はアメリカ30億円、ブラジル25億円、チリ13.5億円 パラグアイ4.5億円 クウェート4.5億円を出資する。過半数を超える賛成により可決。

5. ポスター発表

SDGs のゴール達成を目標とした2年生による課題研究内容は、以下の通り。

- (1) 大滝 萌心 「健康寿命を延ばすために」
- (2) 岡崎 輝星 「米沢でL.G.B.T.への理解を深める」
- (3) 小林 遼緒 「循環型農業を広める為に」
- (4) Junji Ryan Chin Jun Hao 「新しい農業機械の開発」
- (5) 鈴木 栞菜 「伝統工芸品を後世に残す」
- (6) 鈴木 茉衣 「食育～親子のコミュニケーション」
- (7) 高橋 蒼 「オーガニックフードで地球を救う」
- (8) 堀越 貴璃 「川西町フェアトレード運動」
- (9) 宮田 耕平 「フェアトレードと倫理的消費」
- (10) 森 暁仁 「SDGs の認知度を高めるために」

運営指導員の先生の講評 模擬国連とポスターセッションについて

東北公益文化大学 スルトノフ・ミルドザイド 教授

私は東北公益文化大学の国際教養コースで国際協力論の担当をしています。人、物、情報があふれている中で多国間での依存性も増し、1つの国で問題が起きるとほかの国にも影響します。様々な国際的な問題がありますが、問題解決する方法は2つです。国際協力か紛争か。もちろん選択肢としては平和的な国際協力の方が良いわけですが、その平和的な解決をサポートする国際機関が国連です。今日行った模擬国連を見ていると、国際問題を解決するための交渉を本当に将来皆さんがやってもおかしくないと思います。

2016年から九里学園のSGHの取り組みを見ていますが、去年の模擬国連の取り組み方と比較すると、より自分の代表する国について調査してさらに詳しくなりました。

また、今日は新庄東高校と合同で模擬国連を行う事によって、よりリアルな交渉ができていたと思います。3年生や卒業生のサポートがあることもとても重要だと思います。

食料問題とフードロスというテーマをひとつの課題と捉えて課題解決について考えているという点も素晴らしいと思いました。ポスター発表についても、SDGsのゴールにテーマを置いて調査、研究をされていることは魅力的だと思いました。生徒さんは若くてまだ研究経験は少ないと思いますが、調査結果をもとに解決策を提案していることが評価に値します。

6. 事業概要説明

研究開発推進委員長 鈴木精教諭

九里学園高等学校で実施している「想・創 まほらディアプロジェクト」についての説明が行われました。主にグローカルラーニング、グローバル・シチズンシップ・プログラム、教科横断型共同学習の3つを柱とした国際人の育成を目的とした教育を行っています。学校プロジェクトとして「食と健康」「子ども食堂」「多文化共生」の3つのプロジェクト、グローバル・キャンプ地球塾、グローバルタレント塾、山形大学 Edge-Next、留学、グローバルサミットの活動についての内容と成果について報告した。

7. 運営指導員の先生の総評

(1) JICA 東北 本田勝様

本日は、地域の課題、国際的な課題について個々の課題について認識を持って発表、議論をして取り組んでいるという事に感銘を受けました。こういったソフト型の問題解決の答えは1つではないと思うので、常に疑いを持って、多面的な視点をもってこれからも自分の考えを深めていって欲しいと思います。そうした取り組みによって、地域社会や国際社会が良くなっていくと思うので、皆さんの活躍に期待しています。地域のリーダーとして、また国際社会で活躍される方がここ米沢から出ていくことを期待しています。九里学園高等学校、新庄東高等学校の教育関係者の皆様の、生徒に対するご指導とご支援に心からの敬意を表します。

(2) 尚絅学院大学 森田明彦教授

本日は、基調講演の起業家教育論から模擬国連まで拝見して、私自身も色々と勉強させて頂きました。今回3回目の参加ですが、毎年生徒さん達だけでなく学校としても新しいことに挑戦されて教育活動に生かされているという事に感銘を受けました。様々な課題でテーマとしているSDGsを考える際に、ビジネスセクターとの協働が重要になると考えています。いま皆さんが取り組まれている活動は、これからさらに必要になっていく活動になると思いますので、さらに積極的に続けていってほしいと思います。